

<白金標準、需給要因から 4445 円を上回る値動きへ・・・>



(出所：オアシス)

今週以降にロンドンでプラチナ・ウィークの予定であり、JM 社が 2025 年の「PGM マーケットレポート」を発表する予定でもある。特に JM 社は需要側から見た統計であり、鉱山会社 6 社が出資する WPIC に比べ厳しい見方を行っている。ただ 2024 年 5 月のレポートでは、2 年連続の 18.6 トンの供給不足を予想しており、3 年連続の供給不足を指摘するかに注目される。また WPIC は 12 日に 2025 年第 1 四半期 PGM 需給報告を発表する。前回 3 月には、2025 年を 26 トンの供給不足を指摘し、地上在庫を需要の 4 ヶ月分に満たない 171 トンを指摘している。特にトランプ大統領が相互関税や自動車に対する関税を発動しており、その措置に対する見方が何処まで悪影響を示すのか注目される。

ただ世界の 7 割のプラチナ生産を行う南アフリカにおけるプラチナ鉱山は価格低迷に伴う赤字のため、コスト割れの鉱山は閉鎖するなど供給量に対する増加は期待できない。

そのため JM 社も WPIC も 3 年連続の供給不足の発表になると思え、「需給に勝るもなし」の格言もあり、4500 円へ向けた見直し相場へ移行すると思われる。

<テクニカル>

白金標準先物の日足を MACD と RCI で見た場合は、MACD では **MACD** が上昇し、**シグナル** も上昇している。また RCI では **短期** が切り上げ、**長期** は切り上げている。特に日足が **10 日移動平均線** を上回るなど **40 日移動平均線 (4460 円)** は向けて戻りを意識すると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行ってください。売買の判断はお客様御自身で行ってください。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,455,000 円(2025 年 5 月 7 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 68,640 円(2025 年 5 月 7 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>